

平成21年6月10日現在

研究種目：若手研究（B）

研究期間：2006～2008

課題番号：18760479

研究課題名（和文） 日本の公的工事資料・役所・システムの史的 research

研究課題名（英文） HISTORICAL RESEARCH ON PUBLIC WORKS ARCHIVES, OFFICES AND SYSTEMS IN JAPAN

研究代表者

氏名（アルファベット） 藤尾直史（FUJIO TADASHI）

所属機関・所属部局名・職名 東京大学・総合研究博物館・助教

研究者番号 70334290

研究成果の概要：当初から掲げてきたように公的工事資料の特性、公的工事役所の特性、江戸東京の公的工事システムの特性など大きく3つのテーマをもとに個別に複数の小テーマを設定しつつそれぞれについて研究を進めるとともに各年度において後掲のような成果を得てきた。そのほか期間内に未発表のもの、あるいは発表を予定しているものについては今後へ向けて準備を進めている。

交付額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2006年度	1,000,000	0	1,000,000
2007年度	1,000,000	0	1,000,000
2008年度	600,000	180,000	780,000
年度			
年度			
総計	2,600,000	180,000	2,780,000

研究分野：建築史

科研費の分科・細目：工学、建築学、建築史・意匠

キーワード：日本、建築、土木、都市、建設、産業、工事、資料、役所、システム

1. 研究開始当初の背景

日本の建設産業は有数の巨大産業ではあるもののさまざまな問題へ直面していることはよく知られているとおりである。そのような建設産業について「日本の都市の建設請負業に関する社会史的研究」(平成12-13年度日本学術振興会特別研究員奨励費)、「前近代及び近代日本の建設史料・産業構造の研究」(平成14-16年度科学研究費補助金若手研究(B))を通して歴史的な観点から研究を進めてきた。以上のような背景のもと開始したのが本研究である。

2. 研究の目的

日本の建設産業の将来的なあり方を考えるうえで歴史的知見がそのまま役立つとは限らない。むしろ将来的には全く新しい何かが見出される可能性があるが、それらの意義の検証にあたっては結局のところ歴史的知見が不可欠であることからそれらの開拓あるいは拡充ということを目的とするのが本研究である。

3. 研究の方法

一般的な歴史研究の方法による。

4. 研究成果

当初から掲げてきたように公的工事資料の特性、公的工事役所の特性、江戸東京の公的工事システムの特性など大きく3つのテーマをもとに個別に複数の小テーマを設定しつつそれぞれについて研究を進めるとともに各年度において後掲のような成果を得てきた。

さまざまな機会の積極的な活用を図りつつ関連テーマも含めて複数のテーマについて新たな資料の所在を確認し、まとまったものについては次年度以降へ向けて内容の確認

を進め、所在状況もあって内容の確認ができなかったものについては次年度以降へ向けて確認の準備を進め、すでに内容の確認を終えているものについては同じく次年度以降へ向けて発表の準備を進めてきた。

初年度の帝国大学図書館と理科大学博物学教室について既発表の論考を補完展開する形で再論する機会を得た。町触については過去にも各所において断片的には論じてはきたが、あらためてまとまった形で論ずる機会を得るとともに、その限界についても確認することとなった。水戸藩小石川屋敷については過去にも2度へわたって口頭発表の機会を得てきたが、それらを踏まえる形であらためて発掘調査報告書の一環として発表する機会を得ることとなった。

2年目の江戸の上水について過去にも複数回へわたって成果公表を行っているが、それらを補完しつつもそれらとは異なったものとなりとくにその後新たに得た知見について論じたものである。入札についてもやはり過去に複数回へわたって成果公表を行っているがこれもやはり過去のものを補完しつつそれらとは異なったものとなりとくにその後新たに得た知見について論じたものである。人体と機械については過去に異なった文脈で成果公表を行ったものを踏まえつつその後新たに得た知見を加えたものとなっている。

3年目の工費基準については過去に複数回へわたって成果発表を行っているが過去のものを補完しつつそれらとは異なったものとなりとくにその後新たに得た知見について論じたものである。分業を中心とする工事体制についてもやはり過去に複数回へわたって成果発表を行っているがこれもやはり過去のものを補完しつつそれらとは異なったものとなりとくにその後新た

に得た知見について論じたものである。機械工学模型については過去に異なった文脈で成果発表を行ったものを踏まえつつその後新たに得た知見を加えたものとなっている。そのほか期間内に未発表のもの、あるいは発表を予定しているものについては今後へ向けて準備を進めている。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計 12 件)

- 01 藤尾直史(2008)「江戸時代の分業をめぐる工事体制」『日本建築学会建築生産シンポジウム論文集』24. 55-62.
- 02 藤尾直史(2008)「水戸藩小石川屋敷について」『土木史研究』28. 67-70.
- 03 藤尾直史(2008)「複合工事をめぐる体制について」『日本建築学会北海道支部研究報告集』81. 327-332.
- 04 藤尾直史(2008)「大工木挽鋸鍛冶工事体制について」『日本建築学会近畿支部研究報告集』48. 841-844.
- 05 藤尾直史(2008)「強度保証体制について」『日本建築学会四国支部研究報告集』8. 111-112.
- 06 藤尾直史(2008)「工費基準をめぐる再論」『日本建築学会関東支部研究報告集』78. 401-404.
- 07 藤尾直史(2008)「大工工事と木挽工事の相関関係について」『日本建築学会関東支部研究報告集』78. 405-408.
- 08 藤尾直史(2008)「入札をめぐる補論」『日本建築学会九州支部研究報告集』47. 745-748.
- 09 藤尾直史(2007)「入札の歴史的様態」『日本建築学会建築生産シンポジウム論文集』23. 247-254.
- 10 藤尾直史(2007)「江戸の上水についての補論」『土木史研究』27. 109-112.

11 藤尾直史(2006)「明治初頭築地居留地工事体制について」『日本建築学会九州支部研究報告集』45. 725-728.

12 藤尾直史(2006)「帝国大学図書館と理科大学博物学教室 人類学教室標本の位置づけをめぐる補論」『日本建築学会北海道支部研究報告集』79. 499-502.

〔学会発表〕(計 4 件)

- 01 藤尾直史(2008)「工費基準について」『日本建築学会大会学術講演梗概集』. 47-48.
- 02 藤尾直史(2008)「機械工学模型について」『日本機械学会年次大会講演論文集』. 415-416.
- 03 藤尾直史(2007)「初期的・継続的な入札の一形態」『日本建築学会大会学術講演梗概集』. 371-372.
- 04 藤尾直史(2007)「人体と機械」『日本機械学会年次大会講演論文集』. 99-100.

〔図書〕(計 件)

〔産業財産権〕

出願状況(計 件)

取得状況(計 件)

〔その他〕

6 . 研究組織

(1)研究代表者

藤尾直史 (FUJIO TADASHI)

東京大学・総合研究博物館・助教

研究者番号 : 70334290

(2)研究分担者

(3)連携研究者